

会 議 録

会議名	令和4年度 第2回印西市子ども・子育て会議
開催日時	令和4年12月12日(月) 午後2時00分から午後3時25分まで
開催場所	印西市役所3階 大会議室
出席委員	西村 信 会長、山崎 晃生 委員、武藤 茂 委員、古賀 一人 委員、小林 すみ子 委員、 松山 毅 委員、金子 貴子 委員、塚田 昌幸 委員、篠原 裕子 委員 計 9名
欠席委員	伊藤 秀賢 委員 岩井 基 委員、 荒野 多恵 委員 計 3名
出席職員等	[健康子ども部] 部長 岡本 一弘 [事務局]【子育て支援課】青木 恵巳子、金森 紀美子、黒田 学、木村 裕子 [関係課]【保育課】澤田 慎一、服部 里江、植木 浩、成田 勝也 【健康増進課】坂本 郁子、伊藤 恵子 【学務課】佐久間 庸夫、大知 尚暢、藤代 悠子 【生涯学習課】鈴木 圭一、山崎 白 計16名
傍聴者	0名
会議次第 議 題	1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 議 題 (1) いんざい子育てプラン進行管理「進捗状況」について 【資料1】 (2) 市内保育園及び認定こども園の利用定員について 【資料2】 (3) 印西市立瀬戸幼稚園の廃園について【資料3】 (4) その他 4. そ の 他 5. 閉 会
配布資料	・令和4年度 第2回印西市子ども・子育て会議 会議次第 ・令和4年度第2回子ども・子育て会議席次 ・【資料1】 いんざい子育てプラン進行管理進捗状況 ・【資料2】 市内保育園及び認定こども園の利用定員について ・【資料3】 印西市立瀬戸幼稚園の廃園について

会議概要・審議経過

会議の公開と傍聴規定について
会議の録音及び会議録の署名について
会議の開催について 出席者9名で定足数に達していることを報告
会議資料の確認

1 開 会

2 会長あいさつ

西村会長からのあいさつ

3 議 題

【会 長】 それでは、議題に入らせていただきます。
議題（1）いんざい子育てプラン進行管理「進捗状況」についてを議題とします。それでは事務局より説明をお願いします。

(1) いんざい子育てプラン進行管理「進捗状況」について 資料1

○事務局より説明

○質疑

【委 員】 進捗状況のところで教えていただきたいのが、例えば今資料1の妊婦健康診査では、令和3年度の実績値が824名ということですが、例えばこれは実際の出産届出された方のどれぐらいなのか。824というのが、分母が出産を届け出した人のどれぐらいを占めているのかわかれば教えていただきたいのが一つと、あともう一つが子育て短期支援事業。子育て短期支援事業でコロナの関係もあって、受け入れ予定の乳児院が受け入れられないということで、実績ゼロですよね。他にもコロナの関係で受け入れができないので、実績が極めて少ないというデータがあったのですが、これは実際に実績値っていうのは、その利用された数か。ただこれはニーズがあったのか、なかったのか。例えば預けたいと思ったが預けられなかったからゼロなのか、そもそもそのニーズがあったのかなかったのか。

【事 務 局】 まず、妊婦健康診査のところの数字についてお伝えいたします。この実績値の824というのは、妊娠届出時に、受診券を渡した実人数になります。妊婦健診の受診券というのは、1人14回分を助成しています。同じ対象者ではないが予定日等で年度をまたぐ人もいますので、受診券を利用している人は概ね9,515件。あとは償還払いと言って、受診券が使われる方がいますので、その方が254件になる。あわせて9,769件が妊婦健康診査を受けていただいたということになります。

【事 務 局】 続きまして子育て短期支援事業の関係ですが、ニーズはあったのかということで、1件

相談があったということは報告を受けているが、やはり乳児院で、コロナの関係で受け入れができないとその方にも説明させていただいて利用がなかった。こういったことを放置してはいけないということで、令和4年度に、表の下の「今後の方向性」というところに書いてあるが、市内の里親家庭の方々と意見交換を行い、里親家庭の方で、今後この子育て短期のニーズがあった方について受け入れをしていただけるということで話が進んでおり、今、1件ご相談を受けている状況です。

【委員】 私が知りたかったのは、出産前の健診もそうだが、飛び込み出産だったり、里帰り出産をしている方もいるので、この券を配っても使わなかったり、赤ちゃん訪問とか、1歳半健診とか3歳児健診、法定検診等で、本来来るはずの人が来ない場合、その方の状況を把握し、来ない方もきちんと受診しているか、配った券を使用しているかということまで追跡されているのか。件数だけじゃなくて、枚数も14回分あるが、産前産後のリスクの把握をしたり、そういったことがされてるのか聞きたかった。

【事務局】 委員の話していた受診券の利用状況はこちらでも把握をしていて、受診された場合、受診券の控えが市に戻ってくるので、そこで検診の結果を見て連絡することもありますし、または、何か支援が必要な方は、直接通っている産院からこちらに支援の依頼が来ることもある。また赤ちゃん訪問で、受診券の利用状況を確認しますが、利用せずに出産されたという方はいません。併せて検診でも、検診を受けた方はもちろん、未受診者についても追跡して、どういう理由で受診されなかったのかということまで全数把握するよう努めている。

【委員】 この計画値と実数、実績の差が出た時、プラスとマイナスの二つがあると思うが、令和4年度5年度6年度の計画値はもうすでに決まっています、今後3年の計画値というのはずっと前に作られたもので更新はされないのか。それとも毎年こうやって、進捗状況が今どうなっているかというのを話して、柔軟に計画値を変えているのか。二つ目が、学童の話もあったと思うが、小学生の話になっていると思うが、幼稚園代表と保育園代表がいるが、小学生の保護者に話さなくてよいのか。学童はこの委員会で話すことなのか分からないが。

【事務局】 まず、計画値についてですが余りにも乖離がある場合にはこちらでお諮りして、計画か数字を変えることができるが、その場合は県の計画にも影響するので県にも報告すれば計画値は変えられないということではない。保育園が必要な子どもが増えてきているので、定員の変更はここにお諮りして、ふやしている状況です。それから、学童の問題で学校の代表の方がいないということですが、この子ども・子育て会議は子どもの保護者という枠組みの中で委員を引き受けてくれる方をお願いをしているので学童のお子さんを持つ親御さんがなっただけの時もあり、今回のように保育園・幼稚園の代表の方になっただけということもある。あと関係する方に色々な意見を頂いて、そういったなかで様々な議論をして頂くのがこの会議ですので、保育園・幼稚園の代表だから学童のことについて触れられないということではないので、色々な意見を皆様から頂ければと思います。

【委員】 これだけのメニューを揃えて支援をしていく、対応していくということは、非常に素晴

らしいことと思います。ただ、例えば乳幼児の増加や検診について把握できると思うが、私どもの方では子育て支援拠点事業をやっていて、ホームページ或いはお便り等で周知はしているが、まだまだ地域性というか、人口の少ないところで、乳幼児もあまり多くないというわけではないが、どれだけの人がこれだけのメニューを知っているのか。市でこのようなメニューの情報提供をして、利用していただきたい。要しないものについてはあっても意味がないので、情報の提供の仕方、その手法を確認させていただきたい。

【事務局】 この計画の周知に関しましては会議の会議録、それから計画策定の時にはホームページで周知している。先ほどの子育ての拠点に関しては、拠点にお便りを作っていただき、ホームページに掲載することでこの事業の周知に取り組んでいるが、実際はまだ周知が足りないというお話かもしれないので、今後はホームページも少しリニューアルするという考えもあるので、そういったところでなるべく多くの方に見ていただけるよう、来ていただけるように周知に取り組みたいと思っています。

【委 員】 今の補足ですが、ホームページは見にいかななくてはけないが、何もしてなくても入ってくる情報というのがベストなので、印西市は結構SNSとか頑張っているというイメージが強い。いんざい君のツイッターやインスタがある。インスタグラムとかSNSをやっていると、AIでその関連のものがフォローしてなくても出てくる。そうすると、ホームページに行かなくても関心があるとその関連のものが勝手に出てくるので、こういう事業があるんだっていうのがわかる。そこでやっとならホームページに行くので、こんな時代ですから、SNSなどの対応をしていくのが一番いいと今話を聞いてて思った。

【事務局】 ご意見ありがとうございます。私達はそういった視野が狭いということもあるかと思うので、皆様からそういった広い視野でご意見をいただくと非常にありがたい。

【委 員】 まず最初に待機児童のところで、大幅に解消することができたということで、すごく安心しました。また今後の方向性の部分に関しても、より一層進めていくということで、非常によかったかなと思っています。各事業に関しては、新型コロナでなかなか事業実施自体も難しい中で、規模が小さくなってしまった事業もあると思うけれども、先ほど委員から質問があった短期入所のところでは里親をうまく活用しながら、前向きに事業を検討しているというのは、非常にいいと思っています。これは質問というか、感想、意見ですが、学童クラブのところで、障害をお持ちの方の学童クラブ、いわゆる私たちの制度でいうと放課後のデイサービスというのがありまして、今後、国の方策で、放課後のデイサービスに関しては、手帳を持っていないお子さんであったり、支援学級に通っていないけれども配慮が必要なお子さんに関しては、なかなか利用が難しい方向性になっていて、そのような中で受入れるべきところは学童クラブ、というような話も出ていて、やはり障害が重いお子さんだけではなくて、軽い生きづらさ、生活のしづらさを抱えているお子さんに対しても、学童クラブというのは必要なものになってきていますので、その行き場がなくならないような、そんな学童クラブの方と、放課後のデイサービスと、教育委員会の方と、学童クラブを管轄するところと、障害福祉課の方が連携をとりながら、行き場がないということがないように検討していただけたらいいと思いました。

【事務局】 学童クラブのことについてお答えさせていただきます。学童クラブにつきましては指

定管理者で運営しているものと民間で運営しているものがあります。指定管理者で運営する際の仕様書に、加配が必要な時の受け入れも、条件というか仕様上入っており、実際に受け入れていますので、引き続き対応させていただきたいと思っています。

【会 長】 (1) いんざい子育てプラン進行管理「進捗状況」については、事務局案の説明のとおりとしてよろしい方は挙手をお願いします。

【委 員】 全員挙手

【会 長】 挙手全員ですので、本議題については事務局の説明のとおり承認することといたします。

議題(2) 市内保育園及び認定こども園の利用定員について、事務局の説明をお願いいたします。

(2) 市内保育園及び認定こども園の利用定員について 資料2

○事務局より説明

○質疑 なし

【会 長】 (2) 市内保育園及び認定こども園の利用定員については、事務局案の説明のとおりとしてよろしい方は挙手をお願いします。

【委 員】 全員挙手

【会 長】 挙手全員ですので、本議題については事務局の説明のとおり承認することといたします。

議題(3) 印西市立瀬戸幼稚園の廃園について、事務局の説明をお願いいたします。

(3) 印西市立瀬戸幼稚園の廃園について 資料3

○事務局より説明

○質疑

【委 員】 5ページ目ですが、預かり保育などを行っている私立幼稚園や保育園のニーズの高まりから、将来的に私立幼稚園や保育園に幼児教育、保育の役割を移行することを検討して参りますという文面があるが、今後、瀬戸幼稚園が廃園になって、もとの幼稚園に集約ということですが、今、定員が大分不足している状況ですが、幼稚園が保育の役割をしますというのはどんなイメージを考えているのかということをお聞きしたい。あと、その判断材料というか、今後の見通しも含めてお話いただきたい。もう一つ、今、加配のお子さんが結構多く、もとの幼稚園のナレッジみたいなものがあると思う。加配の先生がいらないといった場合に、その辺をうまく連携ができればいいと思っているが、そのあ

たりのところお聞きしたい。

【事務局】 まず今回は、瀬戸幼稚園についてはもとの幼稚園への集約ということ、また瀬戸幼稚園が、一定の集団で教育を受けるというのが非常に難しい状況です。本年、4歳児5歳児それぞれ12名で集団での生活になっています。ですので、もとの幼稚園については、まだ人数がいるので、ニーズがある限りは、存続ということになっていますが、やはり一定の集団が幼児教育には必要となってくるので、その辺を見計らっていきたい。方針に記載しておりますが、幼児教育保育のあり方については、教育委員会としても、今後の園児の推移を見ながら考えていきたいと考えています。2点目の加配ということで、支援を必要とするお子さんは、年々増えてきております。なかなか担任だけでは難しいというところで、公立の幼稚園でも補助教員等をつけてサポート体制をとっていますが、人を確保するのが難しく、公募等で募集はしているがなかなか集まらない状況です。ですので、人伝いにどなたか知り合い等に声をかけていただいたりして人材の確保に努めている状況ですので、そういった情報があれば連携して行けたら大変ありがたいです。

【委員】 今の補助教員等の話の中で、疑問に思っているのですが、園児の人数で先生の人数の決まりみたいなものはそれぞれの園で決めているのか。それとも、園児が何人で、目が届く範囲などで人数が決められているのか。なぜかといいますと、いろいろなニュースで、手が足りない過酷な勤務になっていることも多いようなので、先ほど話していた補助の人が資格を持っていない、ある程度の興味のある年齢の方々や、ボランティアというほどでもないがそういった人材で、もっと子供たちの見守りをするのができないかと考えているので、現状はどうなっているのか。

【事務局】 まず補助教員等ですが、その基準はございません。ただし、それぞれの園の状況を確認して、支援の必要なお子さんがいるということであれば、補助教員免許、有資格の方も免許のある方とない方で二つありますが、何人必要かということ把握して、配置をしているところです。先ほどと重なりますが、なかなか人材が見つからないという状況です。

【委員】 今年、瀬戸幼稚園で募集をかけて0人ということだったが、もとの幼稚園に集約化しても、もとの幼稚園の園児の数というのは、この先増えていくというイメージではないと思ったのでそこを確認したい。それと先ほど2名の委員からの質問に対して、人材不足といていたが、そのもとの幼稚園の先生が辞めている。私がこの委員会の委員をやっているという、保護者から相談が来る。保護者は、市役所に相談に行ったがどうしようもないと言われてしまった。人材が少ないというのは、周知して集めても集まらないという問題もあると思うが、辞めてしまうというのは職場環境の問題もあるのかなと思った。私立の保育園や幼稚園と公立の保育園、幼稚園の違いは、公立は市役所が絡んでくると思うので、職員の採用や役職など、多分市役所が全部決めると思うが、その職員、環境を把握して改善していかないと、今後人材不足といった問題は解決されないのではないか。今後保護者の声に耳を傾けてあげて欲しい。

【事務局】 まず一つ目の集約化ですが、先ほどもご質問があったので、同じ回答になってしまうかもしれないですが、確かに年々、園児数は減ってはきていますが、一定の人数がいるのでしばらくはこういった推移になるかもしれません。ただ、この先、増えていかないという

ような状況があれば、先ほどと同じように、もとの幼稚園の存続についても検討していかなければならないと考えます。もう1点ですが、人手不足ということでお話がありました。園の中の職場環境というものが非常に大きな要因ではないかというようなご指摘でした。やはり、何よりも子供たちが幼稚園でよりよい環境の中で、教育を受けるということは、職員の職場環境が非常に大事な要素ではあると思うので、今ご意見いただきましたので、重く受けとめて、よりよい職場環境に努めるよう、教育委員会としても働きかけをしていきたいと考えています。

【委員】 一応もとの幼稚園は公立幼稚園で、市の税金が投入されているが、例えば幼稚園に配置された人の加配の補助金や人手などでメリットはあるのか。もとの幼稚園が存続した方がメリットがあるという判断でよいか。将来的なことも含めて、税金が投入されているので、そのあたりをどのように考えているのか。

【事務局】 公立の幼稚園ですので、もちろんその施設の運営、管理等については、税金が投入されていますが、公立幼稚園の伝統もあり、現状として入園者数も一定の人数のお子さんが入園されニーズがあると考えているので、メリットということではなく、そのニーズに市は応えるべきではないかと考えます。

【委員】 今の委員のつけ足しですが、ニーズの話があったが、もとの幼稚園は預かり保育がない。それで、保護者もなぜないのかという意見も多い。ニーズがあっても、もとの幼稚園はやらない。印西は両親が二人とも働いている方が多い、預かり保育をやっている事業者はあるのでそのニーズには答えないとすると、もとの幼稚園はなくなってしまうと思う。だから、ニーズに答えていこうと思うのであれば、存続をさせようと思うなら、保護者のニーズに答えていかなければいけないと思う。預かり保育をもとの幼稚園でやる、やらないといった方針は市が決めるのか。

【事務局】 ご質問ありましたニーズに、預かり保育もあると思う。ただ、公立幼稚園で同様のサービスを実施するという事になると、先ほどから申し上げた人員の確保等、財源の確保といった課題があるので、現状としては難しい状況です。

【委員】 この地域には、ほかに幼稚園とか保育園はあるか。この会議は印西市全体の保育料、子育てに関する整備を検討するということもあると思うが、地域的な課題として、地域に幼稚園があると入園する人が少なくても地域にとっての価値がある。確かに利用者数が少ないことは廃園の一つ判断の根拠になり、民間なら多分撤退するが、公立だから撤退しない。公立の役割は廃園になった施設の資源としての使い道と、税金をどう使うかという議論をすることだと思う。人が少ない、お金かかるという理由で廃止というのも一つですが、人は少ないけれども、資源として残しておき、地域のコミュニティセンターやデイサービスセンターなどをつくるとか、幼稚園単体としてだけではなく地域の拠点づくりに組み合わせて再編していく。特にこの瀬戸の地域は、印旛でも端の方だからこそ地域の方は愛着があり、ここの出身の方もいるので、議論があってもいいのかなという意見です。これは今後、次年度以降の議論の中でそういうことも少し考えていただければいいかなと思いました。

【事務局】 印旛地区という地域の特性で、隣は酒々井町がある地域で、瀬戸幼稚園は、この地区にお住まいの方がみんな瀬戸幼稚園ということではなく、酒々井方面の幼稚園に通っている方も非常に多くいます。今回廃園に至ったのは、園児数が非常に減少傾向にあるということと、瀬戸幼稚園の園舎そのものがかなり老朽化していて、今お話のあった資源として活用していくことが非常に難しい状況です。

【会長】 (3) 印西市立瀬戸幼稚園の廃園については、事務局の説明のとおりとしてよろしい方は挙手をお願いいたします。

【委員】 全員挙手

【会長】 挙手全員ですので本議題については事務局の説明のとおり承認することといたします。続きまして、議題(4)その他について事務局の説明をお願いいたします。

【事務局】 特になし。

【会長】 それでは、以上すべての協議が終了いたしましたので、進行を事務局にお返しいたします。

4 その他

【委員】 今後の会議の時に、今日みたいに数字が多かった時、ずっと読んでいたが追いつけなく探している間に進んでしまうので、私たちも事前にいただいて資料を読んでいるが、全部の数字見ているわけではない。たくさん数字が出るときは、重要な数字っていうのが必ずあると思う。今後はプレゼンの仕方を工夫してパワーポイントでやっていただけると、見なくてもその話している方のことを見て集中できますので会議の進行をちょっと工夫していただけるとありがたい。

○事務局より連絡事項等

- ・次回会議予定について
- ・委員報酬について

5 閉会

令和4年度第2回子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 5年 3月 7日

子ども・子育て会議委員 小林 すみ子

子ども・子育て会議委員 金子 貴子